

文部科学大臣 萩生田光一 様

文化庁長官 宮田亮平 様

文化庁によるあいちトリエンナーレ補助金不交付に強く抗議します。

本件のニュースは海外のメディアでも大きく取り上げられています。

このような処置は、日本の文化政策として諸外国に対して、
マイナスの印象しか持ち得ないものだと思います。

どこの国にも負の歴史というのがあります。

アメリカにも日系人強制収容所の歴史、ドイツにもホロコーストの歴史があります。

アメリカもドイツも、それらの歴史を扱うアート作品に政治的圧力をかけることはありません。

「文化表現に対し政治的圧力をかける」行為は、民主主義国家である日本において、あるまじき処置であると考えます。

過去の過ちを黙殺しないことは、G7加盟国でもある日本政府の責務だと思います。

本件で文化庁は「手続きの不備」を主な補助金不交付の理由として挙げており、その最終決定と展示内容との関連性を否定していますが、

海外メディア及び海外美術関係者は、今回の補助金不交付を「政治的圧力」としか見なさないでしょう。

文化とは、人間の精神のあり方と密接に関わっています。

本件のような政府の芸術への政治的圧力は「文化の牽制」を生み出します。

牽制された文化は保守化し退化していくでしょう、文化的退化は社会的退化にも繋がります。

これまでの人類の芸術史において「文化の牽制」の下に従順であった芸術は歴史的な

価値をほとんど持ち得ないものが大半です。

芸術とは社会の鏡となる存在です。

その当時がどのような社会的状況であったかを、未来によって検証される存在です。

視覚的な美以外の価値を芸術が内包していることを、ぜひ認識していただきたいと思います。

現在と未来への文化政策として、不交付の撤回を強く求めます。

近藤愛助
2019年10月3日